宗像

毎月十五日発行
発行所
宗像大社
宗像会
〒811-3505　福岡県宗像郡玄海町
電話　0940－62－1311㈹
http://www.munakata-taisha.or.jp/
定価　一年送料共　1000円

神具・装束
結婚式場用品
株式会社　井筒
福岡店　福岡市博多区東公園一－三二（〒812-0045）
電話　福岡（092）六五一－九四五六番
本店　京都市下京区油小路六条北入（〒600-8231）
電話　京都（075）三四一－三三四一（代）－四番

# 筑前大島の七夕

## 第四十六回　七夕揮毫会開催

今年で四十六回目を迎えた筑前大島の夏の恒例行事、中津宮七夕揮毫会が七月二十五日、例年にない猛暑の中開催された。

この揮毫会（主催＝宗像大社中津宮・大島村教育委員会）には宗像市・郡内はもとより、県内外の幼稚園小・中学生が参加、日頃の練習の成果を発揮せんと席上揮毫に臨んだ。

書道教育の振興と交流を目的に始められたこの揮毫会は、大島小・中学校の先生方を中心に、各方面の御協力により、夏休み中のこの時期に毎年開催されており、参加者は揮毫だけでなく、豊かな自然に恵まれた大島で心身ともにリフレッシュも出来、楽しい一日でもある。

約百四十名の参加者は、会場の大島小・中学校にて各課題に挑戦、筆先に精神を集中させて一心不乱に浄書、揮毫会場は緊迫した空気に包まれた。正午前には全作品が中津宮社務所に提出され審査を待った。

全作品が揃ったところで中津宮ご神前に奉献、書道の上達と健康を祈念しておはいの後、いよいよ審査。

福岡書道会の城戸筑山先生、船越白鶴先生、松原宏山先生、本松泉先生、大島小・中学校の先生方の協力を得て厳正なる審査が行われ、福岡県知事賞以下各賞が次々と選定された。

一方この間、参加者や保護者たちは、海水浴や、オープンしたばかりの温泉に入ったり、大島漁民の協力による恒例の「サザエ拾い」に興じたりして、先程までの緊張から開放され楽しい一時を過ごした。

午後三時各賞が決定、中津宮拝殿にて表彰式が行われ、主催者挨拶、松原先生の講評に続き、入賞者へ賞状とトロフィーが授与され、本年の揮毫会も盛会裡に終了、大島での夏の一日を楽しんだ子供たちは帰路についた。

各賞の入賞者は次の通り

（並賞以下省略）

**福岡県知事賞**
柳河小二年　原　愛梨
筑南中一年　持丸亜里紗

**福岡県議会議長賞**
津屋崎小六年　鹿嶋　亮介
筑女中二年　江田亜由美

**福岡県教育委員会賞**
柳河小五年　原　由梨亜
筑後中三年　矢加部菜摘

**宗像大社宮司賞**
勢門小四年　渡島　武史
筑南中一年　河島　里美

**宗像市長賞**
津屋崎小三年　高田　栞
筑女中三年　林田安岐子

**宗像郡町村長会長賞**
大島小一年　船越みさき
中央中二年　原　由子

**宗像郡町村議会議長会長賞**
津屋崎小三年　田崎　愛
津屋崎中一年　占部知寿穂

**大島村長賞**
雙葉中三年　池田真悠子
津屋崎小六年　内山　峻

**大島教育委員会賞**
東宮氷小四年　龍　咲希
中央中一年　大神　加菜

**福岡書道会賞**
津屋崎小五年　田崎　加菜
東宮氷小四年　龍　美有
八女学院中二年　太田　麻璃
自由ヶ丘小六年　白木　聡平
篠栗小二年　松原　周蔵
大島小一年　沖西　葉月
中央中一年　藤又　千晶
筑南中一年　本荘　龍一

**尚文堂賞**
大島幼稚園　藤島　成花
島栖西中二年　円城寺雅子
長峰小三年　中田梨津子
勢門小六年　峰松　尚人
中央中一年　桑山　浩二
雙葉小四年　大塚　綾子
南当仁小二年　萩　ありす
津屋崎小六年　大城戸七海
津屋崎小五年　長瀬　健人
津屋崎小四年　内山　七恵
津屋崎小三年　三木祐佳里
津屋崎小三年　鹿嶋　渉
福教大附小二年　千代　翔陽
長峰小五年　木庭　麻由
城山中二年　梅田　真央

**ヒロカネ賞**
上妻小四年　浜崎英里香
長峰小三年　教楽木慶子
光友小三年　高山　春香
勢門小六年　渡島　慎治
東郷小二年　中山　航太
中央中二年　桑山　大輔
玄海東小五年　梅田　彩加
玄海中二年　安部　竜也
福間中一年　野中美乃理
八幡小四年　角　友圭
八幡小六年　角　有紗子
雙葉小五年　菊地　伊織
吉武小二年　高山あすか
津屋崎小三年　鈴木　龍弥
雙葉小一年　ひらえしほ

## 短冊に願いを込め　七夕祭斎行

中津宮境内には大島最高峰の御嶽山に源流を発する「天の川」が流れ、この清流を挟んで石祠の「牽牛社」と「織女社」が祀られていることから、筑前大島は七夕伝説発祥の地と言われている。

天の川のほとりで、年に一度の逢瀬を楽しむ祭りとしての伝統神事、〝七夕祭〟が八月七日、村を挙げて斎行された。

早朝から、沖・中両宮奉賛会役員、同敬神婦人部、大島村青年団の奉仕により「天の川」沿いの境内には棚機の祭壇が設けられ、更に大島村民、幼稚園児等が短冊に願いを込めて作った笹竹が参道石畳沿いに立てられた。

午後八時、日は暮れても暑さが残る中、佐藤奉賛会会長、杉田大島村長を始め島内外の人々が多数参列する中、七夕祭を斎行、各々願いをこめて玉串を捧げ神事を滞りなく終了した。

続いて、浴衣姿の大島婦人会、漁協婦人部や子供達が七夕踊「夕浪千鳥」を奉納。あわせて炭鉱節踊りも披露され、大いに盛り上がった。

一方参道では大島村青年団奉仕の金魚すくい、ヨーヨー釣りなどに、子供達がはしゃぎながらさかんに挑戦。

筑前大島の夏の一夜は、大いに賑わった。

## 余滴

夏の風物詩―甲子園参加

四千百五十校の頂点を目指し、第八十三回全国高校野球選手権大会の福岡県大会が行われた。

昨年より二校増え、百三十三校参加、全国九番目の激戦区となった今年の大会は、七月七日から二十八日迄熱戦が繰り広げられた。

その結果、県南部シード校で、見事に本年の代表の座を射止めたのは、九産大九州高校である。

部員数九十六名の私立校で、一年前の選抜（春の甲子園）に初出場。昨秋、今春と九州大会に連続出場するなど、地力はつけていたが、それゆえに今回選手が感じた重圧は計り知れないものだったであろう。

優勝候補の一角として出場した今大会、足を負傷したエースを盛り立て、決勝戦以外は全て緊迫したスコアで苦しい戦いであった。

礼儀を重んじ、公私に亘り日常の生活態度から粘り強い指導法を貫き通した監督、素直に受け入れた選手達の二人三脚の結果、日頃から守りを基本とした練習の成果が本番で発揮でき、激戦区で悲願の〝夏の甲子園〟初出場を勝ち取った九産大九州高ナイン。

レギュラーの内、四名が中学時代に当社職員の指導を受け、立派に成長した姿をグランドで見せてくれた。

自分の力で物事を行う「自立」と、自分が立てた規律に従い行動を正しく規制する「自律」の二つの「じりつ」を指導目標に掲げ、さわやかに試合に臨んだ姿は、学校教育の原点を見た思いがした。

（Y・I）

残暑御見舞申し上げます

博多の味
味噌せんべい
博多の四季
本舗
有限会社　梅月堂
代表取締役　三野拓蔵
〒812-0029　福岡市博多区古門戸町1－11
TEL　092－291－2966

「聞く・考える・作る・伝える」ことが、私たちの仕事です。
私たちは「ヘルメス企業体」です。

ギリシャ神話に登場する神・ヘルメスは、翼の生えた帽子とサンダルを身につけ、神々の間を飛び回ってそれぞれの神の意志を伝えました。
より良いコミュニケーションのお手伝いをめざす秀巧社もまた、ヘルメスでありたいと考えます。
お客様が伝えたいことを、伝えたい人にきちんと伝えたい・・・・秀巧社がめざすのは「ヘルメス企業体」です。

秀巧社印刷株式会社
営業本部
〒810-0004 福岡市中央区渡辺通5-14-9
Tel 092-712-7711 Fax 092-714-1017
http://www.shukosha.com/
Shukosha

# 大祓式・夏越祭斎行

## ＝茅の輪を潜り、無病息災＝

真夏の強い夕日が照りつける中、当大社恒例の「夏越の大祓神事」が古儀に則り厳かに斎行された。

「大祓」（おおはらえ）とは中世の「神祇会」に、毎年六月と十二月の晦日に朝廷で、「知らず知らずのうちに犯した罪や穢を除去し、災厄を避ける式」として始められ、現在では神社祭礼となり、当大社では七月と十二月の晦日に斎行されている年中恒例神事である。

七月三十一日早朝、地元総代、協力会の方々の奉仕により、直径約五メートルの大茅の輪作りが行われ、正午近くには鮮やかな緑色の大茅の輪が神門に取り付けられた。茅の輪は「備後風土記」によると蘇民将来が小さな茅の輪を腰に付けて疫病除けをしたことに由来する。

神門前には、全国各地の崇敬者から寄せられた、紅白の人形が収められた唐櫃が据えられた。

災厄除けの人形は今から約一五〇〇年前、当社では沖津宮に奉献された祭祀遺跡の中にその信仰を見る事ができ、特に滑石製人形、舟形、馬形等は古代の人々が安全と繁栄の祈りを込めて神に捧げたもので、当社神宝館に収蔵展示されている。現在では紅白の紙の人形（男は白・女は赤）に自分の名前を書き、息を吹きかけ、当大社に返納されてきたものである。

また切麻、祓物、大麻等が案上に奉安され、午後五時の大祓式準備作業が完了した。

夕刻の五時とはいえ、日中の日差しと殆んど変わらぬ暑さの中で、神門前に神職、巫女、総代のほか、多数の一般参列者が列をなした。

神島権宮司が朗々と大祓詞を宣読し、参列者全員に手渡された切麻、真榊の大麻で天・地・人形を祓い、各自の身体を祓い清めた。

続いて祓物と呼ばれる白布に息を吹きかけて切り裂き、年が明けてから半年間に知らず知らずに犯した罪穢をこれに託した。

続いて、太田宮司以下参列者全員が神門を

みなつきの
夏越の祓へする人は
千歳の命延ぶといふなり

思ふこと
皆つきねとて麻の葉を
切りに切りても
祓へつるかな

宮川の
清き流れにみそぎせば
祈れることの
叶わぬはなし

と唱和しながら大茅ノ輪を三度潜り本殿へと参進。

引き続き夏越祭が斎行され、国家・皇室の安泰と氏子崇敬者の災難消除、繁栄を祈念し、巫女の「豊栄舞」が奏され、今年の大祓式・夏越祭が終了した。

祭典後、古来より魔除けとされる大茅の輪の茅（ちがや）と、当大社授与品茅の輪御幣〟を参列者は各自玄関や神棚に供えるべく、夕暮れの中持ち帰った。

## 宗像大社菊花会

## 玄海小に菊花贈呈

七月十一日、玄海町立玄海小学校で宗像大社菊花会より菊花贈呈式並びに菊花講習会が開催された。

玄海小学校では、昨年から全校生徒が菊を育ており、秋には校内菊花展、又当社の西日本菊花展にも出品、昨年の第三十回西日本菊花大会では約八十鉢の大輪菊を出品、大会を大いに盛り上げた。

今年もぜひ出品したいと高宮校長先生を始め、各先生方、地元PTAの方々の熱い思いを受け、今回宗像大社菊花会より菊を贈呈、講習会の運びとなった。

贈呈式には宗像大社菊花会の役員が出向き、全校生徒に数多くの菊花を贈呈し、その後、菊花の育て方の説明会を開いた。

説明を聞く生徒達の目は真剣そのもので、立派な菊を育てようという意気込みが強く感じられた。

育てる事の素晴らしさから生徒たちが豊かな心を養っていただきたい。

今年も秋の菊花展には、この生徒達が一生懸命育てあげた菊が境内に飾られ、人々の目を楽しませることであろう。

又、去る五月九日には、この贈呈式に先立ち、当社より菊の肥料・資材等の手渡し式が行われた。

「御礼」

当大社恒例の夏越大祓式斎行に当たりましては、宗像郡市内氏子各位並びに全国崇敬者の皆様より、多数の人形・初穂料をお寄せ戴き、皆様の罪・穢れを祓え却りました。お蔭を以ちまして、祭典も盛大裡に斎行致すことが出来ました。

ここに謹んで御礼申し上げます。

平成十三年盛夏

宗像大社社務所

崇敬者各位

## 奉納袋配布並に取纏め御礼

平成十三年度、宗像大社夏越大祓式斎行にあたり、郡市氏子各位への奉納袋配布並に取纏めにつきましては猛暑の中御奉仕を賜り深く感謝申し上げます。

祭典は例年の如く盛大厳粛に斎行致すことが出来ました。

茲に謹んで紙面を以ち感謝の意を表します。

平成十三年八月吉日

宗像大社
宮司　太田可愛
宗像大社氏子会
会長　安部照生

宗像大社
氏子会評議員
〃　総代　各位

# 大社の神宝 グラスロード Vol.3

昭和三十三年（一九五八年）頃、イラン高原北部ギラーン州のパルティア・ササン朝時代の古墳より、我国の瑠璃碗との類似品が多数出土した。

これにより、西域起源とされていた我国のガラス器の源流が、いずれもイラン高原にあるという可能性が浮上した。さらに、ローマン系のシリアガラスの技術を摂取・模倣して製作したパルティア・ササン朝期の器物の存在により、ローマ世界とパルティア・ササン王朝が政治的には対立しながらも、文化的には密接な関係を結んでいたことが立証された。

我国へ伝来したササングラスには、①凹刻円文切子碗②浮出し二重円文切子碗③浮出し円文切子碗④円環張付碗と四種の装飾様式がある。当社神宝沖ノ島出土の瑠璃碗片は③式に当たる。

ササングラスは、器全体への円文の施し、カット又は熔着装飾の二技法の使用、デザインの高さ、種類の少なさなどの点で共通の特色を持つ。ここがローマングラスやイスラムグラスと大きく異なる点である。

パルティア朝（紀元前二四九～紀元二二四年）は、歴史的にはアケメネス朝とササン王朝の中間に当たり、東洋と西洋の接触の場としてローマ帝国と中国との交通・交易の媒介者であった。「絹の道」が開かれたのもこの時期で、西はローマ帝国から東は大和までが一直線で結ばれ、各地で文化交流・文化開花がみられた。

三世紀に勃興したササン王朝において、ペルシアのガラス工芸は隆盛を極め、ガラス器伝播の波が、我国に打ち寄せることとなる。

ササングラスのうち、凹刻円文切子碗の出土例はメソポタミア、アルメニア地方、中央アジアの北方シルクロードの各地、そして日本の伝安閑天皇陵、正倉院（伝世）等である。中国・朝鮮に出土を見ないが、敦煌出土の絹幡には、観世音菩薩の右手に緑色の凹刻円文切子碗が描かれている。

駱駝に荷積みされペルシアから東へ東へと進んできたカットグラスは、交易の要所で現地の特産品と交換されながらも、ペルシア→中央アジア→長安→（朝鮮半島）→海北道（玄界灘の海の道）→大和という経路で我国に辿り着いた。それは正に奇蹟の旅であった。

（写真は敦煌出土の絹幡）

残暑御見舞申し上げます

日本紙工株式会社
九州事業部
取締役事業部長　毛利恒弘
福岡県粕屋郡新宮町大字立花口一〇五五一〇
TEL　〇九二―九六三―〇一一一（代）

Photo Studio 一勢
（宗像地区消防本部前）
代表　山下誠治
福岡県宗像市田熊1180－6
☎　0940－36－8596

YAMATO
大和印刷
代表取締役　的場重徳
宗像市大字田熊五一一六－二
TEL　〇九四〇－三三六－二〇二七
FAX　〇九四〇－三三七－一八五五

総合建設業
株式会社　弘江組
取締役会長　中野弘愛
代表取締役　花田和彦
福岡県宗像市大字稲元一〇二五
TEL　〇九四〇－三二一－二五六七
FAX　〇九七〇－三二一－三九一八

鮮魚仲買卸・小売業　有限会社　やまえ水産
代表者　安部實
会席、仕出し、鉢盛御用命に応じます
宗像郡玄海町神湊
TEL　〇九四〇－六二一－〇〇〇六
FAX　〇九四〇－六二一－二一四三

# 沖ノ島出土の神宝四点出陳

## 大英博物館で「古代日本の聖なる美術」特別展

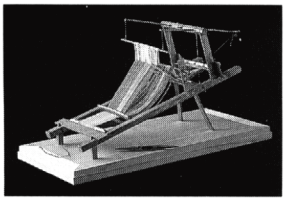
英国「大英博物館」で今年九月五日～十二月二日に開催される「古代日本の聖なる美術」特別展＝主催、文化庁、日本国際交流基金、大英博物館に宗像大社沖津宮の鎮座する沖ノ島から出土の神宝四点が文化庁より選定され、出陳されることとなった。

四世紀～八世紀に神前に奉献された、約一二万点の国宝、重要文化財指定の祭祀遺品の中から、学術・美術・工芸的に優れ、古代日本人の生活、技術、風俗を表わす国内希少の文化財として選ばれた。

**金銅製高機（こんどうせいたかはた）**

銅地鉄に塗金を施した長さ四三センチ、高さ二二・八センチ、巾は一六・七センチの布織機のミニチュア。実際に布を織れることが出来る精巧な作りである。古代日本人の技術の高さと、近世迄国内各地に於いて使用された高機の原形で、日本唯一の出土品である。

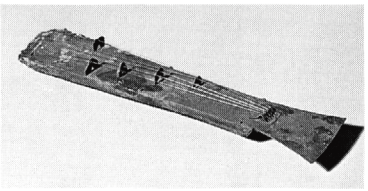
―重要文化財指定―



**金銅製五弦琴（こんどうせいごげんきん）**

銅地鉄に塗金を施した長さ二七・一センチ、頭部巾五・八センチ、尾部巾六・五センチ、厚さ〇・八センチの精巧な雛形品である。五本の琴糸を通す穴も明確で五個の琴糸柱も同時に出土している。和琴の一種で延喜式に記載されている「鵄尾琴」（しびのをのこと）に類した型で尾部が撥状をした独特の形をしている。

―重要文化財指定―

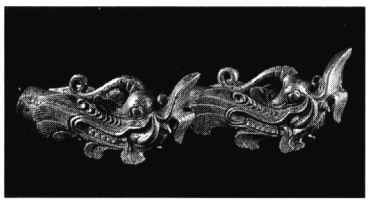


**金銅製龍頭（こんどうせいりゅうとう）**

銅に塗金を施した二個一対で、長さ二〇センチと一九・五センチ、高さ一〇・二センチと一一・三センチ、重さ一・六四キログラムと一・六七キログラムである。

古代中国では「龍」は権威象徴として宮殿、玉座、威儀物に用いられている。金銅製龍頭は貴人の威儀物として竿頭の飾と同時に旗や天蓋等を吊す為の物で、中国山西省天龍山石の壁画に非常に類似した物が描かれている。龍は又空想上の動物であるが、出土品は実に華麗な彫刻が施され美術品としても優れ我国唯一の出土品である。

―重要文化財指定―

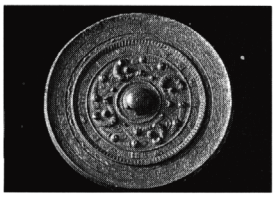


**鼉龍鏡（だりゅうきょう）**

白緑色の鋳上の良好な銅鏡で直径三三・七センチ、重さ九五五グラムである。鏡背面文様は八個の同心円に区別され外縁は素文帯、次に菱雲帯、次に三角突起帯、次に鋸歯文帯、次に半円方形帯、次に櫛歯文帯、次に龍文帯が有り、次に有節突起帯施され、中心に長方形の穴の開いた鈕がある。

龍文は大小二個の龍が描かれている。大は右巻に小はこれに交差する形である。羽文、珠文、鱗状文、線文等が複雑に絡み合う文様となっている。日本独自の製鏡（国産）品で国内の同范（同じ鋳型で作る）鏡は少ない。

―重要文化財指定―



以上の四点は古墳時代末期から奈良時代にかけて、九州本土から約六〇キロの玄界灘の孤島「沖ノ島」の沖津宮に於いて、国家の重大事に祭祀が行なわれた時に奉献された物である。

その後一六〇〇年～一二〇〇年の間、絶海の孤島の原生林に護られ、日本人の篤い信仰により保存されてきた。

当大社では今度の大英博物館で開催される特別展に文化庁の要請により、神道祭祀の遺品として特別出陳することに決定。去る七月十九日文化庁より森田稔管理指導官が来館、職員立会いのもと慎重に照合の上、厳重に梱包を行い引き渡しを行った。

今回の英国特別展は、日本の伝統美術工芸と共に、郷土芸能も紹介し、欧州各国の相互理解を深める総合的な日本紹介事業として「JAPAN二〇〇一」と題し、日英両国に実行委員会を結成、名誉総裁に日本は皇太子殿下、英国はチャールズ皇太子殿下がそれぞれご就任され、官民挙げての行事として平成十三年五月～十四年三月迄、ロンドン市を中心に英国各地に於いて、それぞれイベントを決め、開催される。

この中の特別展に日本最古の祭祀遺跡である沖ノ島の祭祀遺品を外国に於いて展示し、古代日本人の神道祭祀への敬神の心と、神恩感謝の意を表す奉献品を現代まで護り伝えてきた日本人の証として「海の正倉院・沖ノ島祭祀遺品」を初めて海外へ出陳することとなった。

## 第四八二回　宗像大社歌会詠草

大野展男選　毎月25日〆切

原　八波　五月

死ぬ時は皆独りぞと思ひても終の幾日子は要るものか

吉　留　高山　信子

死と常に隣合せにゐる吾は尊く思ふその時々を

名古屋　小田　喜一

長かりし一日と思い失いし一日と思う老いにし身には

（評）老いがそのまま死につながる訳ではないが、死を身近く感じることは確かであろう。老いはそれ程マイナスイメージだろうか、老いという言葉と、字のイメージには、老熟とか老練というような尊敬的なひびきをもつものもあるが、老朽、老害、老耄など無残なイメージが多い。しかし現代は、歳のとり方は実に個別的で、六十ですでに老耄あり、八十で溌剌たるあり、男も女もさまざまである。

私の歌の大先輩の野村清氏は八十六歳で

『人間はあまり長生きすべからじ然るべき齢にわれもなりしに』

また、斉藤史さんは

『疲労つもりて引出しし　ヘルペスなり』

といふ八十年生きれば、そりゃああなたと、いづれも老いを死を、達観して、のびやかに詠って居られる。

採りあげたお三方は八十歳を大分超えられているのだろう。期せずして死と己とのかかわりを詠って、私達の心を打つ。御元気でと念ずるものである。

名古屋　小田　留子

小包の隙間を埋めし新聞の皺を伸ばして古里を読む

（評）古里は何処に住んでいても、何歳になっても懐しいものである。「古里を読む」に新聞を隅み隅みまで目を通す作者の姿が見えるようであり、うまい表現である

朝　野　藤井　浩子

入りて寒しここも冷房効きすぎて気に入りの扇子用なさずをり

（評）扇子はどちらかと言うと女性が似合う。扇子を使う女人は、ほのかな色気がある。作者の扇にはどんな図柄が描かれているのか、一寸覗いて見たいものである。猛暑の今年にふさわしい一首。

光　岡　河村　久光

白鷺が体重げに田を飛びてややにへだたる溝に降り立つ

（評）鷺には、大鷺、中鷺、小鷺の種別があるが、いづれも全身純白なので総称して白鷺と呼んでいる。嘴と足が長く鶴に似ていて、飛翔時は長い首をS字形に縮め、翼を緩慢にはばたかせ悠々と飛ぶ、それを、体（カラダ）重げと表現した。或はそれは己を重ねて見たのかもしれない。そんな作品である。

福　間　池浦千鶴子

吸殻は火の付きしままの風に煽られころころ動く

田　野　森　つるの

梅雨の雨五日続きて釣川は泥色となり流れの速し

日の里　石松　知子

庭畑にたわわに実るミニトマト千切らずにおく明日来る孫に

田　野　森　甲子

一瞬に霧かかりくる大観峰折角の阿蘇何一つ見えず

曲　天野　玲子

中元の品に迷いていくたびもデパートの中を巡りているも

光　岡　井上　嘉治

レトロ町跳ね橋割れて夏の虹蒼き海辺にしばし漂う

光　岡　古森テル子

なにげなく窓よりみつめる銀杏木のみどりの葉かげに一つ実の見ゆ

光陽台　香月　照子

しらじらと明けそめし窓にはりつけるやもりの影はユーモラスなり

大　島　越智　治子

梅雨のあめひと日あがりて夜遅く上弦の月おぼろに光る

日の里　大和美由紀

緑濃き夏山に鳴く鶯の清しき声を聞きて草刈る

武　丸　中村さつき

梅雨最中妹や娘らと一泊のめかり山荘清張資料館へも

自由ケ丘　土井眞由美

思いでに溢れる日記へ目を通しセカンドラブを綴くアルバム

鐘　崎　安永　久子

子等遊ぶ声消え果てし吾がめぐり山車ひく児等に活気いただく

残暑御見舞申し上げます

みなとタクシー株式会社
代表取締役　古野　浩
宗像市大字土穴三九八―十一
TEL〇九四〇―三三―一三三一
FAX〇九四〇―三三―二二四四

新星交通有限会社
代表取締役　森　正彦
宗像市大字東郷八九四―三
東郷営業所 TEL〇九四〇―三六―二二八

宗像西鉄タクシー株式会社
代表取締役社長　出口典征
宗像市自由ケ丘二―七―三
TEL〇九四〇―三二―四一三一

宗像グリーンタクシー有限会社
代表取締役　藤瀬政敏
宗像市大字河東一〇六一
TEL〇九四〇―三三―三三〇三

宗像平和タクシー株式会社
代表取締役　塩川弘昭
宗像郡福間町二七二八―一三
TEL〇九四〇―四二―〇〇四〇

福栄タクシー有限会社
代表取締役会長　保井久
代表取締役社長　保井享
宗像郡福間町一六三三―八
TEL〇九四〇―四二―〇三七三

宗像交通有限会社
代表取締役　塩川弘昭
宗像郡津屋崎町大字津屋崎新川端
TEL〇九四〇―五二―〇〇一五

## 宗像大社歌会
### 俳句作品集（四五七）

東郷　田中　憲蒙
雨あとの土　みて夏燕

日の里　花田いつ枝
水門の渦より発ちし夏の川

自由ケ丘　細川　絹子
今掃きし庭を通ればはや落葉

東郷　三浦美千代
犬走る風かをる野に放されて

東郷　田中　雨葉
風薫る一艇ごとのエンジン音

東郷　木原　房子
薫風や宮の風鐸輝やかに

東郷　吉武　湧泉
薫風やマンモス団地の吹き流し

東郷　中野　きみ
久々の空の広さや風薫る

東郷　吉田　杏子
列なして登校の児等よ風薫る

## （続）海の寄物
### 159　いしいただし

猛暑の夏だった。この異常な暑さに、地球温暖化を感じた人も多かったのではないだろうか。猛暑の中、連日報じられる凄惨な事件にテレビや新聞を見るのも怖くなった。

暑さで海水浴場はどこも人で賑ったのではないかと思うが、八月初めに山陰海岸でサメ出没が報じられた。そのサメ騒動が玄海にもあらわれようとは―。

盆入りの十三日、早朝からヘリコプターが飛んでいる。浜に出てみた。近くの数人が海を見ている。「なんごとですか」と聞くと「事故じゃないですか」という返事だった。

津屋崎の方からも巡視船が、こちらの方にむかってくる。ヘリは古賀から新宮へ、ゆっくりと飛んでいる。

夕方になって、古賀沖にサメが出没しているということを知った。テレビニュースを見ていたら、十二日午後四時ごろ、津屋崎町の海水浴の遊泳者から、沖にサメがいると通報があり、通報を受けた海上保安庁では、十三日早朝、ヘリコプターと巡視艦を出動させて調査したところ、古賀市の花鶴河河口の西北約一～一・五キロの沖合いで八匹のサメを確認したのである。

それから毎日ヘリコプターがとび、サメの動きを監視している。

盆に入りもう海水浴はピークを過ぎたが、福間・新宮ではマリンスポーツがさかんである。そのため遊泳禁止がとられたところもあった。古賀や福間では毎日広報車を繰り出して注意を促していた。

古賀花見浜では「花鶴川河口付近でシュモクザメが発見されています。付近で海水浴や釣りをされる方は十分注意ください。」古賀市役所、八月十三日という貼紙が海岸一帯に貼られた。

シュモクザメは矢野憲一氏の「鮫」には「化けもののようなサメ」「凶暴である」「人喰いザメ」とある。

化けもののようなサメとはその頭の形である。シュモクとは撞木のことで、鐘を鳴らすときに使う十字形のたたきものをいい、それが撞木に似ているところから来ている。

英名ではハンマーヘッドシャークと呼ばれ、見るからに不気味である。世界には九種、日本近海ではアカシュモクザメ、シロシュモクザメ、ヒラシュモクザメの三種がいるという。

この風変りな頭部は「じつに奇妙な形で目と鼻孔は横へ張り出した部分の先端にある」（サメ・ウオチング）不思議な形にはいくつかの説があるがここでは省く。

この独特の姿から、ヘリコプターからでも容易にサメの種類が特定できたのである。

凶暴とか人喰いザメといわれるが、種類によっては襲うものがいるようで、頭部の異様姿にも恐怖感があり、それも一因であろうか。ちなみに人喰いザメとしては、ホオジロザメ、イタチザメ、オオメジロザメ、ヨゴレ等がいる。これらのサメはスーパーシャークといわれ、巨大さ、凶暴性、おもしろい習性と特徴をそなえたものである。シュモクザメもこの中に入っている。

私がシュモクザメの漂着を見たのは、鹿児島県・吹上浜と、沖縄県・石垣島で、石垣島漂着は二メートルほどあった。大きなものは四メートルから六メートルになるものもあるという。

また一九九九年の冬には福間町・花見浜で四匹のシュモクザメが漂着していた。腐敗がひどく、写真撮影をしたのみであった。大きさは四五センチほどであった。漁師の網にかかったものであろうか。シュモクザメは胎生である。一度に生まれ、網にかかった可能性もある。

今年のサメ騒動、沿岸に近寄っているので、暑さとも関係があるかもしれない。

シュモクザメ

## 話題の車紹介
### スバル「レガシイ」

ワゴンの常識を常に塗り替え、スポーティーカーをも凌駕した走りの本能を備えるツーリングワゴン。妥協という言葉を一切排除する事でしか得る事の出来ないミリ単位の操縦性能を追及した車、それがレガシイツーリングワゴンです。

五月二十二日にマイナーチェンジしたレガシイの装備、仕様等をこの場で説明するのは控えさせて頂きたい。

なぜなら、レガシイは乗ってみて初めて本物の車の良さがわかる車だからです。レガシイに限らずスバル車全てに言える事であるが…。

以前、富士重工業栃木テストコースで発売前のレガシイに試乗する機会があり、その時ある有名なモータージャーナリストが言っていた言葉が今でも耳に焼き付いている。「国内の自動車メーカーには優れたテストドライバーがいる。しかし、その意見を素直にクルマの開発に取り入れているのはスバルだけだ」と。

小手先のマイナーチェンジや、目新しさだけの新型車では乗る人を永い間満足させる事は決して出来ない。

「コニサー」という言葉がある。「目利き」という意味であるが、昔はそういう人が結構いた。専門的な分析は出来なくても、いいものの味を知っている人にこそレガシイに乗って欲しい。

全体から見た数はたとえ少なくても、物の本質を見極める目を持っている人は必ずいる。スバルはそういう人の期待に応える様なクルマを作り続けて来た。

そもそもクルマは妥協の産物であり、一台のクルマが完成するまでに、それこそ無数の妥協があるはずであるが、レガシイの場合「ここは絶対に負けない」という部分を定めている。

それはグランドツーリングカーの味であって、これに関わる部分は、絶対に手を抜かない。妥協したらユーザーに必ず見抜かれてしまうし、すぐにあきられてしまう。

「ワゴン」と呼ばれる車は沢山ある。商用車ベースのバンに、外観、内装に少しだけ手を加え、「ハイ、ワゴンです」というクルマは、少なくともスバルには存在しない。

是非一度御自分の目で、体で、確かめて下さい。数少ない「ドライバーズカー」と言えるクルマに貴方も乗ってみませんか？話題の車は沢山あっても、名車と呼ばれ、世界に認められる車はそうそうありません。車に対する考え方、見方が根底からくつがえされる車、それがレガシイツーリングワゴンです。

～お問合せ先～
福岡スバル自動車㈱　宗像支店
宗像郡福間町中央四丁目二十一番十三号
☎〇九四〇―四一―四五一三


## 残暑御見舞申し上げます

宗像大社神酒
楢の露（ナラノツユ）
勝屋酒造合名会社
社長　山本博次
宗像市大字赤間九五七
TEL 〇九四〇―三二―三〇一〇
FAX 〇九四〇―三二―四七七二

宗像大社神酒
神酒宗像
合資会社　伊豆本店
伊豆善也
福岡県宗像市大字武丸一〇六〇
TEL 〇九四〇―三二―三〇〇一

暮らしの夢を大きくひらく
株式会社　城山家具
代表取締役社長　寺田　修
宗像市大字三郎丸五一九―一
本館　☎〇九四〇―三三―五五三八
城山二　☎〇九四〇―三三―〇〇〇五

宗像大社給排水設備保守管理
叡知と創造力による良好な飲料水の供給
株式会社　サニット九州
代表取締役　村田龍一
福岡県遠賀郡遠賀町今古賀五三番地の四
TEL 〇九三―二九三―五三五四
FAX 〇九三―二九三―八〇五四

事務機・文具・オフィス家具
株式会社　サンクス
代表取締役　藤井俊孝
宗像市東郷一〇九一―三
TEL 〇九四〇―三七―二一五〇
FAX 〇九四〇―三七―二四二八